

平成18年3月期 決算概要

(第49期)

1. 決算取締役会開催日 平成18年5月25日

2. 定時株主総会開催日 平成18年6月21日

決算期 年1回3月31日

連結決算の有無 無

中間配当制度 無

会社名	江間忠合板株式会社
本社所在地	東京都中央区晴海3-3-3 http://www.emachu.co.jp http://www.emply.co.jp
責任者役職名	江間忠木材(株) 常務執行役員
氏名	笛木 純夫
T E L	(03)3533-8231

3. 当期の業績 (平成17年4月1日~平成18年3月31日)

(1) 経営成績 (注)記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

	営業収益	対前期 増減率	営業利益	対前期 増減率	経常利益	対前期 増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
今期	6,873	(4.9)	182	(6.5)	218	(7.7)
前期	7,228	(4.1)	195	(12.5)	203	(13.5)

	当期純利益	対前期 増減率	1株当り 当期純利益	株主資本 当期純利益率
	百万円	%	円 銭	%
今期	104	(---)	1,327.21	5.82
前期	115	(174.4)	1,469.64	

(注) 株主資本当期純利益率は、資本の部合計の期首と期末の単純平均で除して算出しております。

(2) 配当状況

	1株当り 年間配当金	配当金総額	配当性向	株主資本 配当率
	円	百万円	%	%
今期	150	11.7	11.3	0.6
前期	150	11.7		0.7

(3) 財政状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当り株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
今期	5,235	1,832	35.0	23,483.78
前期	5,476	1,728	31.6	22,158.28

(注) 期末発行済株式数 当期 78,000株

前期 78,000株

(1単元の株式数 100株)

4．商品別売上高

分類	主たる取扱商品	売上 (百万円)			構成比 (%)	
		今期	前期	前期比 (%)	今期	前期
木材	2×4工法用木材、集成材等	2,464	2,605	5.4	36.9	36.9
合板	針葉樹合板、特殊合板等	1,413	1,518	6.9	21.2	21.5
繊維板	パーティクルボード、MDF、ハードボード	2,375	2,409	1.4	35.6	34.1
その他	建材、住宅設備・機器、建築金物等	424	531	20.2	6.4	7.5
	合計	6,676	7,063	5.5	100.0	100.0

5．営業の経過及び成果

当期における我が国経済は、米国・中国向けを中心とした輸出の増加と企業収益の改善を背景とした設備投資に牽引され堅調に回復いたしました。証券市場の活性化による資産効果などもあり個人消費も月を追って力強さを増すなど、久しぶりに好況感の伴った景気回復を果たしました。

住宅建築につきましては、景気回復に伴う雇用情勢の改善や金利先高感からマンションが引き続き好調に推移したのに加え、不動産ファンド投資対象の賃貸物件が増加して、平成17年度の新設住宅着工戸数は前年度比4.7%増の124万9千戸となり、3年連続の増加となりました。

このうち、木造住宅は前年度比0.6%増の54万5千戸となりましたが、2×4工法住宅は前年度比6.9%増の9万8千戸と大変好調な伸びとなり、4年連続の増加となりました。一方、マンションは前年度比11.2%増の23万1千戸となり、3年連続の増加となりました。

この様に、当期における我が国の住宅建築は堅調に推移しましたが、米国の新設住宅着工が歴史的な高水準で持続した結果、2×4ランバー価格は高止まりし、又、素材価格の高騰に伴う合板や木質ボード類の値上がりや海上運賃の上昇等のコストアップ要因が重なり、木材及び建材の業界は大変厳しい情勢で終始しました。

このような環境の中で、当社は新商品の開発及び新規取引先の開拓に一段と注力すると共に、仕入及び在庫の管理をきめ細かく行い、コスト管理を全社的に強化して、収益力の向上に努めました。

これ等の結果、当期の営業収益は68億7千3百万円（前期比4.9%減）、経常利益は2億1千8百万円（前期比7.7%増）、当期純利益1億4百万円となりました。

次に主要商品別の概況は次の通りであります。

木材

2×4工法住宅の新規着工戸数は4年連続の増加となりましたが、当社の事業領域の戸建住宅は前年比6.0%の大幅減となり、これに2×4ランバーの価格高止まりに円安が重なり、苦しい営業展開となりました。

一方、集成材用木材については、国内の集成材製品への需要増加により売上は順調に推移しましたが、2×4部門の落込みが大きく、当部門の売上は前期比5.4%減の24億6千4百万円となりました。

尚、子会社の江間忠ホームコンポーネント(株)の事業として進めております2×4住宅用のプレカット及びパネル生産につきましては、3年目に入った野田工場の稼働率向上が貢献し当期は順調に売上を伸ばしておりますが、前述の通り、2×4ランバー価格の高騰により、利益面では苦戦をしいられました。

合板

2×4住宅用構造用合板及び遊技機器用の特殊合板はいずれも売上減となり、当部門の売上は前期比

6.9%減の14億1千3百万円となりました。

繊維板

主力商品のシステムキッチンや洗面台ユニット用のメラミン化粧板及びマンション用クローゼット部材等のパーティクルボードに対する需要は引き続き堅調に推移しましたが、競争が激しく、当部門の売上は前期比1.4%減の23億7千5百万円となりました。利益面では、ユーロ高、素材価格の高騰等コストアップの影響で利益率低下を余儀なくされました。

6. 会社が対処すべき課題

我が国の今後の新設住宅着工戸数は、団塊世代の建替とその第二世代による住宅ニーズ等に支えられ当面堅調を維持するものと期待されますが、少子化による人口の減少という深刻な問題を背景とし長期的には右肩下がりのトレンドは避けられないものと予想されます。他方、木材関係商品や運賃等のコスト高要因は容易に解消される見込みなく、今後も厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況の下で、当社は営業活動面では、先述の2×4住宅関係分野では、本社建設事業部門を江間忠ホームコンポーネント(株)に移管集約し営業の強化及び効率化を図ってまいります。さらに、当社岸和田工場、江間忠ホームコンポーネント(株)嵐山工場及び野田工場の相互間の連携関係をより一層強化して、2×4ランバーの共同仕入等コスト低減を図りつつ、製販増強を進めてまいります。

又、ボード事業分野では、引続き販路拡大を強力に推進すると共に、既存の事業領域での新商品開発に取り組んでまいります。特に、主力商品のメラミン化粧板の木目柄の拡販、及び扉への用途拡大を図ってまいります。又、新たに商品ラインナップに加わった、組み立て家具部材のコンポーネント製品の拡販も併せておこなってまいります。

又、集成材事業分野では、国内の集成材製品需要の増加を背景に、エンジニアリングウッド事業部内に集成材部、特建部を置き、集成材ラミナーの販売及び構造用集成材をベースとした大型木構造の企画、設計、施工などを強力に推進してまいります。更に、設立2年目の製造子会社江間忠ラムテック(株)の生産設備を増強し、江間忠グループ内のプレカット工場及び当社の営業部門との連携を強化し、集成材製品の拡販に全力を傾注してまいります。

一方、木材・建材の事業分野のみならず、企業活動のあらゆる分野で環境負荷に対する管理の重要性が益々高まっており、その取組如何が営業活動にも大きな影響をもたらす時代に入っております。

このような状況の下で、当社は環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得し維持管理をしておりますが、これに加えPEFC森林認証プログラムのCOC認証を取得し環境適合性を積極的に推進してまいります。

更に、環境対応の新規事業として廃オイルを利用した木材の防腐・防虫処理に関する特許権を取得し、処理プラントの製造販売及び処理製品(商品名:EOSウッド)の販売を開始してまいります。

経営管理面では、引き続きローコスト経営の徹底と高収益体質の強化に全力を尽くす方針であります。これ等の課題や施策を効率よく且つ合理的に推進する為、ITシステムの一段の充実及び経営管理体制の一層の強化を進める所存であります。

7. 役員の変動

当社は第46期より役員制度を刷新し、執行役員制度を導入致しておりますが、全員が1年の任期満了となります。

(1) 新任取締役（6月21日開催の定時株主総会及び取締役会で選任）

代表取締役会長 江間亮三
代表取締役社長 江間哲夫
取締役 中沢征信
取締役 藤野義男
取締役 江間壮一（新任）

(2) 新任執行役員（4月1日）

江間哲夫（取締役兼任）
中沢征信（取締役兼専務執行役員）
藤野義男（取締役兼上席執行役員）
橋野一志（上席執行役員）

尚、監査役室秀明は退任し、後任として笛木純夫が監査役に就任（6月21日開催の定時株主総会で選任）。

8. 次期営業見通し

第50期（平成19年3月期）の営業計画は次の通りであります。

項目	営業収益	営業利益	経常利益
金額（百万円）	6,762	253	255
当期増減率（％）	1.6%	+39.0%	+17.0%

以上